

直木賞作家・西加奈子の傑作が映画化



次男 北村匠海 × 末っ子 小松菜奈 × 長男 吉沢亮

世界一優しい愛と嘘が紡ぐ、家族の肖像

原作は累計55万部を突破する西加奈子の同名小説。登場するのは、サクラと名づけられた1匹の犬と5人の家族、そして彼らにとって大切な人たちだ。矢崎仁司監督のもと、長谷川家の兄弟妹を演じるのは北村匠海、小松菜奈、吉沢亮。兄弟妹の母を寺島しのぶ、父を永瀬正敏が演じる。また、彼らが出会う女性キャラクターには、小林由依（櫻坂46）、水谷果穂、山谷花純というフレッシュな顔ぶれが揃った。世界的ピアニスト、アダム・ジョージが劇中曲を担当。今年“再生”した東京事変による主題歌「青のID」が本作のエンディングを彩る。

兄の死から2年——大晦日の晩に起こった、小さな奇跡の物語

音信不通だった父が2年ぶりに家に帰ってくる。長谷川家の次男・薫は、その年の暮れに実家へと向かった。けれど兄の（ハジメ）の姿はない……。薫にとって幼い頃からヒーローのような憧れの存在だったハジメは、2年前のあの日、亡くなった。そしてハジメの死をきっかけに家族はバラバラになり、その灯火はいまにも消えそうだ。そのつながりを繋ぎ止めるかのように、薫は幼い頃の記憶を回想する。それは、妹・美貴の誕生、家族の一員となる犬・サクラとの出会い、引っ越し、初めての恋と失恋……。長谷川家の5人とサクラが過ごしたかけがえのない日々。やがて、壊れかけた家族をもう一度つなぐ奇跡のような出来事が、大晦日に訪れようとしていた——。

